

## Q「研究分野もしくは、担当科目の魅力をお教えてください」

研究分野は、国際金融論、マクロ経済政策あたりですが、分析ツールとして計量経済学を使います。対象となる研究分野ごとに経済理論が異なるので経済理論も学ぶことも重要ですが、計量経済学はどんな分野でも応用が利くというのが一番の魅力だと思います。またパソコンを使用して分析を行うので、パソコンやプログラミングが好きな人にもオススメです。

## Q「その分野もしくは、科目を志したきっかけをお教えてください」

大学時代のゼミ研究が国際経済学だったのが一番のきっかけです。ゼミ旅行でマレーシアに行った時、マレーシアがちょうどアジア通貨危機の真最中だったので興味をもってしまい、大学院で主に通貨危機の理論と実証について研究することになりました。それ以降、為替レート制度分析や為替レートの決定理論、マクロ経済政策へと流れている最中です。通貨危機の発端も一部のヘッジファンドによる投機攻撃が原因とされていますが、これは昨今の原油価格上昇にも一脈通じるものがあり、投機の対象が通貨から商品に変わっただけのようにも思えます。原油価格上昇による物価上昇圧力とサブプライムローン問題による景気後退は、70年代のスタグフレーションを想起させ、又、今夏発生したリーマンショック以降の金融市場の大混乱は、90年代後半の日本における金融危機にそっくりです。経済学は学べば学ぶほど面白くなっていく学問だと改めて思いました。

## Q「推薦する図書を教えてください」

最近読んでいるのは、「最強の経済学者ミルトン・フリードマン(日経BP社、2008年)」です。言わずと知れた現代経済学の神様の伝記です。天才はこうやって生まれるんだなあ、改めて自分との相違を感じました。しかしながら年若い学生さんにはオススメです。この伝記を読んで、明日のノーベル経済学賞を目指してはいかがでしょうか。

つけたしなのですが、「テロの経済学(東洋新報社、2008年)」も同時に推薦します。経済学と私の好きなアメリカンドラマの融合のような本であり、経済学の応用範囲の広さを物語っています。



■計量経済学入門 ■計量経済学  
■マクロ経済統計Ⅰ・Ⅱ

佐藤 綾野  
(さとう あやの)

早稲田大学院経済学研究科博士課程満期退学。新潟産業大学講師を経て現在に至る。北海道別海町出身なので暑いのは苦手。趣味はアメリカンドラマ鑑賞。小学校から高校までバレーボール部に所属したがそれほど上手くない。おとめ座B型。三姉妹の長女。